

神戸市総合基本計画審議 第1回市民生活部会  
議事要旨

日時：平成21年9月22日（火・祝） 14：00～16：30

場所：三宮研修センター 5階 505号室

出席委員：牧里副部長ほか委員25名

【会議要旨】

- ・ 梶本副市長、牧里副部長の挨拶のあと、事務局より、第1回総会会議資料（資料3）について説明があった。
- ・ 牧里副部長から議事次第に入る旨発言があり、本日の議題である市民生活部会における審議資料等について（資料4～5）、事務局より順次、説明が行われ、審議された。

（審議内容についての委員意見は以下のとおり。）

【議題：市民生活部会の検討の全体像】

（昨年度の市民ワークショップ（WS）について）

- ・ WSの結果、特に「家庭・地域・学校で、他人を思いやる心やマナー・モラルが低下する」「地域への参加や助け合いが難しくなる」「行政に対する市民の信頼が低下する」の3点が根幹であり、ここに手を打てば不安を取り除けるのではないかということが見えてきた。
- ・ 「安全・安心」について、市民生活部会の資料では、防災や防犯が「安全」で、健康や医療や消費生活が「安心」というように2つに分けられているような印象があるが、WSでは安全と安心はセットで、安全は客観的なもの、安心は主観的なものにとらえている。

（全体のまとめ方について）

- ・ WSの結果はかなり危機感を煽るものとなっているが、それを受けた全体のまとめ方を見ると、そうした危機感がずいぶん後退している印象を受ける。
- ・ 市がやっている施策が中心になっているが、協働の計画なのだから、事業者・市民の取り組みについても記載すべき。
- ・ それぞれの項目について、行政がするもの、地域がするもの、協働でするものという3分類があると思うが、それが分かりにくい。全体を通じて協働があり、最後にそれが地域コミュニティに流れ込むというような形がよいと思う。「協働と参画」はすべての章に関係することであり、しっかり整理してほしい。

（「市民生活の特色・強み」について）

- ・ 神戸の強みとして「救急医療など医療体制の充実」が挙げられているが、医師不足や、診療科目による医師の偏在などの問題があり、救急医療については市民病院群の穴をカバーする民間の二次救急医療体制もかなり疲弊するなど、救急医療の充実度は下がってきていることを認識してほしい。少子化が進む中、子どもは国の宝であり、小児医療の体制の充実が重要である。また新型インフルエンザに関しては、肺炎を起こした患者に人工呼吸器を使うことで他の手術に支障が出るなどの課題が懸念される。
- ・ 「特色・強み」といっても、たとえば「子育て・教育」など個別の項目を見ると、児童館の配置が中学校区単位で学童保育が過密状態にあることや、中学生の学力の問題など、厳しい部分もあるのではないかと思う。

## 【議題:暮らしに安全と安心をもたらす】

### (消費者問題について)

- ・ 相談体制の充実など、法律・経済的な部分が主眼になっているようだが、検査体制など科学的な部分も重要であり、神戸にもしっかりした検査機関の設置が将来必要である。国の「消費者庁」が立ち上がった今が、近畿全体の検査体制をつくり、神戸が安全・安心の基地になるチャンスである。
- ・ 事業者が検査体制を整えるのは限界があり、市が国と連携して食品やくらしの安全・安心を構築していくシステムが必要であると思う。
- ・ 消費者問題については、衣食住すべてを対象にするというニュアンスにすべきで、特に一番大きな財産である「住宅」も含めることが必要と思う。住宅の手抜きや不法建築などの問題に対して、検査体制が実態として十分追いついていない。たとえば京都府では、建築士会が中古住宅の性能評価をする準備を進めるなど、民間主導の取り組みも行われている。

### (防災・防犯について)

- ・ 地域での防災活動にあたっては、民生委員や自治会、ボランティアなどが役割分担して、高齢者や障害者の避難訓練等を区役所と一緒にやるなど、力を合わせて行っている。救急救命のインストラクターを、消防と連携して増やしていく取り組みも行っている。
- ・ 震災教訓の継承・発信は大切な視点だが、中身の記述は行政がやっていることばかりになっている印象がある。10年前に集集(チーチー)地震が起きた台湾の桃米(タオミン)では、野田北の復興まちづくりのメンバーが、ペーパードームを移設するなど熱心に交流している。このように発信と交流の視点が大切であり、民間の方の熱心な交流活動をもっと拾ってほしい。
- ・ 発信というと神戸だけが全部を知っていてそれを他に教えるというイメージがあるが、それは驕りであって、災害は1つずつ様相が異なる。他国の復興から日本が教わることもある。
- ・ 防犯についてはわずかしき記述がないが、ひったくりや空き巣が急増するなど防犯の課題は多い。ネガティブであっても事実はきっちり押さえて、その上で施策を考えるべき。
- ・ 防犯は、どの地域でも行っている最も基本的な取り組みだと思う。
- ・ 防犯については、日本は世界で一番安全という評判だったのが崩れてきている。市の管轄ではないかもしれないが、警察官を減らさないよう、県に働き掛けてほしい。

### (健康・医療について)

- ・ 健康づくりについては、身体的な健康のみで、心の健康が抜けている。仕事を持たない20歳代の若者が増え、その多くがメンタルの問題を抱えるなど、劇的に外的環境が変わっており、ゼロから見直しが必要なのではないか。
- ・ 心の問題の記述が薄い。高齢化が進み、引きこもり予防の必要性が高まるが、具体策が乏しい。
- ・ ソーシャルエクスクルージョンの問題は、日本的な課題としては、「都市型限界集落」、つまり職や行き場がなくて引きこもってしまうという形であられることもある。行政だけでは対応できず、専門職や事業者や市民グループなどの取り組みが重要になる。
- ・ 自殺者の数は全国で3万人以上で、メンタルヘルスは大切である。引きこもっている人を地域で少しでも救いあげたら自殺者の数も少なくなると思う。
- ・ インフルエンザ予防にあたっては、教育委員会との関係が大事だと思う。
- ・ 中央市民病院の役割は高度専門医療だけでなく一般医療、救急医療が重要であり、西市民病院、西神戸医療センターをあわせた3病院連携による救急医療体制が求められる。中央市民病院は移転に伴って病床数が減るが、本当に足りるのか、柔軟に考えてほしい。

### (障害者の社会参加について)

- ・ 障害者の議論の中で、どうしても障害＝弱者ということになりがちだが、ICT を使えば弱者でなくなることもある。弱者を弱者でなくすプロセスを福祉と呼びたい。
- ・ 神戸は先進的な街だが、ICT の面ではまだ弱く、ホームページにも改善の余地がある。
- ・ 地上デジタル放送の普及により、個別の人にピンポイントの災害危険情報を送ることも可能になった。ICT の活用は、障害者も高齢者も子どもも主体的に参画してお互いの助け合いの発信ができるものであり、すべてのベースに使えるものだと思う。
- ・ 障害者が暮らせる地域づくりを進めるため、地域自立支援協議会を各区に立ち上げ、障害者の支援活動が行われている。ただ、施設の建設には、総論賛成・各論反対が多く、障害者を知らないために怖いというイメージを持っている人が多い。地域の理解を得るため、行政にも協力してほしい。

### 【議題: 自律的な地域コミュニティをつくる】

#### (コミュニティの活動範囲について)

- ・ 自主防災組織の結成率について、小学校区単位だと 90%近い数字はすぐに出るが、単位自治会レベルだと途端に 60-70%程度に下がる。次のステップでは単位自治会レベルで防災の知恵・知識が継承されていくような仕組みが必要と思う。
- ・ 小学校区という地域が大きくなりすぎていないかと思う。小学校とふれまち協などの地域団体の連携は、うまくいっているところとそうでないところがはっきりしている。どの範囲を地域ととらえるかは場所によって違う。お互いの話し合いが必要と思う。
- ・ 小学校区というのは、1年生がランドセルを背負って通える範囲であり、お年寄りでも杖をつきながらも移動できるので、防災活動はできているのではないか。小さく割りすぎるとリーダーが大勢になって、誰の言うことを聞けばよいのか分からなくなるのが心配だ。
- ・ ニュータウンのように計画的につくられたまちでは、小学校区がそのままコミュニティの単位になることもあるが、一方で野田北などは校区が須磨区と長田区に分断されている。住民自身が自分たちのまちと感じられる範囲を基本に考える必要がある。
- ・ コミュニティの範囲は小学校区を最大限として、それ以上大きくはしないこと。大きくなり過ぎると官僚的なシステムになり、うまく機能しなくなる。
- ・ 行政主導で「コミュニティをここからここまでくくって作りなさい」などというのは本末転倒であって、決してしてはならない。

#### (コミュニティづくりのあり方について)

- ・ 地域の中には小学校区ごとに、地域福祉センターがあり、地域の福祉活動の半分ぐらいはここでできているのではないかと思う。たとえば高齢者同士が助け合う福祉銀行の試みなどを通じて、安全・安心をつくっている。市はセンターの所有者として、利用者のマナー向上等と呼び掛けてもらったら、地域のレベルが全体で少し上がると思う。
- ・ ふれまち協には大いに期待しているが、様々な目的に応じた「重ねあわせのコミュニティ」を提唱したい。ふれまち協オンリーということではなく、商店街や市場のつながりなど、生活の中で無理なくつながることができる枠組みを柔軟に考えてもらえればと思う。
- ・ さまざまなコミュニティを重ねあわせて重層的なコミュニティをつくっていくことは、神戸はやりやすいのではないか。外国人コミュニティ、地域コミュニティ、障害者コミュニティなど、いろいろ重ねあわせたコミュニティのあり方を全国に発信するような、大きな戦略を描いてほしい。

- ・ ふれまち協はよい仕組みだが、そもそものミッションは地域福祉を推進するというものであって、必ずしも地域力を高めるという仕組みではない。地域自身がガバナンスできるようにしていくような、多様な地域の代表者、関係者が、テーマ型のコミュニティもかかわったような形でもう一度作り直すと言うのも一つの考え方であり、そのあたりの議論をするべきではないかと思う。
- ・ 地域での高齢者や障害者の見守りについて、震災後に「見守り会議」というものができ、当事者・近隣住民・行政等が入り、取り組むべき事柄や優先順位などを話し合ったが、いつの間にか無くなった。段階的にこうした会議を各地域に作ってもらえないか。引きこもり高齢者の発見にも繋がる。
- ・ 自律的な地域コミュニティづくりが、ボランティア頼みでいつまでやっていけるか。仕事として公共サービスを担うようなコミュニティがこれから必要だ。そうしないと永続的に続かず息切れしてしまう。これからはボランティアとは違った接点が必要になると思う。
- ・ 市民主権や地域分権についての記述が弱く感じる。
- ・ 横断的連携によるコミュニティづくりの実現のため、庁内での窓口設置や、区別プラットホームの設置など、具体的に踏み込んだ施策で、経済的にも自立度の高いコミュニティをつくってほしい。
- ・ 地域の実情に応じた地域活動支援について、もっと書きこんでほしい。
- ・ 外国人対応や救命士育成、医療機関との連携、災害時要援護者対策、消費者問題への対応など、すべて取り組めるようなコミュニティをイメージしている。今のように縦割り団体でばらばらで、力が分散する、後継者の育成がしにくいという状態を何とか克服できないかということが、ここで議論されるべきことと思う。
- ・ 小学校では、「のびのび広場」でボランティアが子どもたちに折り紙や囲碁を教えるなどの交流を行っている。
- ・ 子どもと高齢者が顔みしりになるなど、人と人との関係性がしっかりできてくると、安全・安心につながる。子どもが健全に育つためには、行政も学校も大切だろうが、家庭が一番大切である。

#### (外国人も含めたコミュニティづくりについて)

- ・ 中央区は外国人が多く、ゴミ出しなどに関する市の施策が伝わらないことがある。ぜひ在住外国人の意識調査をして、地域の実情に応じた地域活動ができるようなコミュニティをつくりたい。
- ・ いわゆるソーシャルエクスクルージョン（社会的排除）の議論の出発点は移民排斥の問題であり、在住外国人への対応は重要な視点と思う。
- ・ 外国人コミュニティと言っても、かなり小さくバラバラであり、いろいろな国の人がいて、ニーズもそれぞれ異なる。
- ・ 兵庫県・神戸市は外国人のためのディスカッショングループを作るなどしてくれており、数カ国語のパンフレット作成等も含め、外国人のためにこれほど対応してくれる国はないと思う。

## 意見用紙による委員追加意見について

### ●大森委員の意見

- ・安全・安心のためにはDVを重要だと考えます。どこかに盛り込んでいただければと思います。

### ●中川委員の意見

- ・各章ごとに、協働と参画の理念を具現化する市民（団体）の役割、行政の役割、協働の課題を明記するべきでしょう。
- ・コミュニティのところで、社会教育、学校教育の役割が抜けているように思います。